

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立二川小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-3151
愛知県豊橋市二川町北裏 80

E-mail : futagawa-e@toyohashi.ed.jp
Website : http://www.futagawa-e.toyohashi.ed.jp/futagawa-e/index1.htm

児童生徒数 男子 235 名 女子 209 名 合計 444 名
児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、「ぼくたち わたしたちのふるさと 二川」を活動のテーマとして、E S D を地域の人とのつながりを深めて、ふるさとの環境や歴史、文化について探究する取り組みと捉え、今日的課題を自分のものとして把握し、解決に向けて自ら動き出せる子どもの育成を目標とした。

具体的には、地域の行事への主体的な関わり、環境保全に関わる方たちとの交流、故郷の自然に親しむ環境教育を柱に、本年度は、①二川宿本陣まつりに係わる学習、②梅田川の生き物に係わる学習、③自然素材を使った造形活動を行った。

①二川宿本陣まつりに係わる活動

旧東海道の宿場があった本校区では、大名行列を再現した「二川宿本陣まつり」が、11月に開催され、本校6年生は、子ども奴(やっこ)隊、手踊り隊として参加した。

大名行列への参加に先立ち、踊りを教えていただく地域の方を講師として招き、まつりのことを学んだ。まつりを支える方たちの情熱に触れ、自分たちが参加するまつりを自分たちで盛り上げていこうという意欲が生まれ、回覧板での広報や二川駅掲示板を利用しての呼びかけなど主体的な取り組みを行った。

事後、まとめとして書いた「本陣まつり新聞」には、まつりに関わっていただいた方たちへの感謝の言葉が綴られていた。大切な伝統が受け継がれ、子どもた

ちは地域の中で確かな役割をもち、成長することができた。

②梅田川の生き物に係わる学習

4年生は、校区を流れる梅田川について調べ学習を進め、身近な環境の保全活動へと学びをつなげる活動に取り組んだ。6月9日、市内で環境保全に取り組む梅田川フォーラムの方に来ていただいて、ご指導いただきながら、子どもたちは実際に川に入って生き物を探した。

事後、外来生物の多さや水質の悪化について気づいた子どもたちは、その原因について話し合い、環境を守ることへの意識を高めつついった。また、自分たちでできることは何かについても話し合い、実践していくこととなった。

③自然素材を使った造形活動

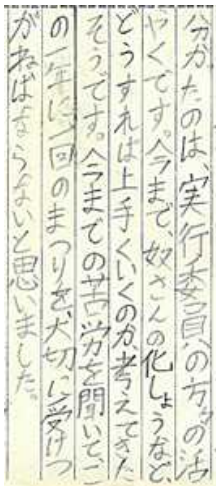
本年度は、4年生の図画工作の時間で、身近な自然素材を使って動物を作り、環境に対する意識を高める学習を行った。活動を通して自然を慈しむ心情を育てることができた。



【①6年 奴(やっこ)踊り 本陣まつり】



【①手踊り 本陣まつり】



【①6年 本陣まつり新聞より】



【②4年 梅田川 生き物調査】



【③4年 図工作品より】

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

二川宿本陣資料館の展示,

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

地域との結びつきを持続可能な社会づくりの担い手の育成の手段と位置付けている本校では、地域の行事への参加や地域の環境保全に携わる方との関わり方について、総合的な学習の時間での教育課程編成にて、例年見直しを行い、年間計画の作成を行っている。

平成 26 年の Application for Participation で掲げた各学年での活動から、4 年、5 年の活動を見直し、平成 29 年度は、環境教育、福祉教育について取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

人との関わりを何よりも大切にしている本校の取り組みにおいては、人材の発掘と保持が大きな意味をもつ。そこで、ゲストティーチャーのリスト化を行い、学年や担任が変わっても協力していただける方との良好な関係が維持できるように努めている。

また、そうした方たちにわくわく発表会（学芸会）の案内状を子どもたちの手で作成したり、年度末にお礼のメッセージを届けたりする活動を行い、継続的に関わっていただけるよう努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

平成 28 年度末に、「育てたい子どもの力」について見直しを行った。それをもとに 29 年度は実践を進めてきたが、これらをどのような形で評価していくかが曖昧になっていることがわかってきた。今後は、子どもたちの学びをどのような形でふりかえり、次の学習に生かしていくかを検討し、実践に結び付けていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本年度は大きく報告形式が変わり戸惑っているが、例年各学年の取り組みについて年次報告書にまとめ、実践を振り返っている。まとめたものを提出するだけでなく、本校で例年発行している冊子「現職研修のまとめ、来年度への道標」に載せ、全職員に配付を行い、次年度での実践の参考にしている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域の環境保全団体「岩屋緑地に親しむ会」と本校児童の交流について、親しむ会のホームページで紹介していただいている。3年生の実践では、子どもたちが学習内容を地図にまとめたものを作成し、岩屋緑地のレストハウス内に掲示し、広報している。また、本陣まつりを盛り上げるために二川駅掲示板を利用し、地域の方への広報活動も行っている。インターネットでの広報活動は十分ではないが、地域に対して学校での活動を発信しようと努めている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

平成26年度は、5年生の総合的な学習の時間において、「国際交流」をテーマに取り組みを進めていたが、それ以降は地域と環境、福祉に活動内容を絞っているため、国内外の交流という点で活動が十分とは言えない状況となっている。2020年の東京オリンピック開催というビッグイベントを前向きに捉え、子どもたちの学びの中に効果的に国際交流に関する活動を入れられるよう、来年度は計画を進めていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

もともと地域の方たちが往来する頻度の高い学校であったが、窓口が狭く、一部の職員が地域の方との連絡を一手に担っていた傾向があったが、ESD活動の本校のねらいを「地域交流からの学び」に定めたことで、多くの職員が様々な方と関わりをもち、有機的に子どもたちの学びが繋がっていく傾向が見え始めている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

豊橋市は外国語教育推進のため、平成29年度まで3、4年の総合的な学習の時間は、35時間であったのに対し、平成32年度の新指導要領完全実施では、70時間に復活する。移行期である31、32年度、本校ではまだ35時間を標準時間とする予定であるが、完全実施をにらんで、70時間となるように内容の充実を計画していかなければならない時期となる。

本校では、ESD活動を主に総合的な学習の時間での活動に位置付けているため、より充実した内容を構想していく必要がある。現在、3年は、岩屋緑地との関わりを通じた環境学習、4年は梅田川との関わりから水の大切さを学ぶ学習を展開しているが、時間数の増加に伴い、防災や国際交流など、子どもたちが学ぶ必要性があるものに結び付けていったり、5年で学ぶ福祉活動につなぐ学習を入れたりすることができないだろうかと模索していく必要がある。まだ具体性はないが、新指導要領完全実施を見据え、何が必要かを見極めていく一年としていきたい。